

麻生すこやか通信

VOL. 30

医療法人 札幌麻生脳神経外科病院 広報誌 2016年7月

麻生品質 麻生プライド

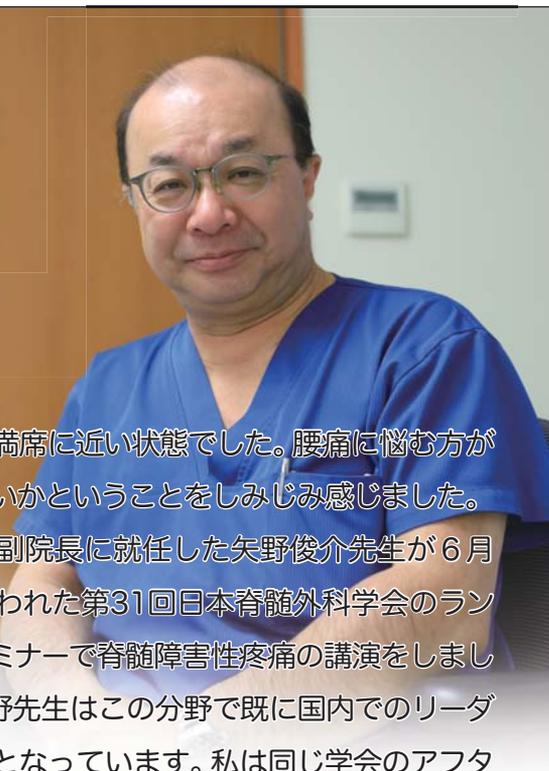
院長 飛驒 一利

5月にシンガポールでの脊髄国際学会に参加した帰りの飛行機で「下町ロケット」を第1話から第5話まで見ました。以前に話題になったTVドラマで「半沢直樹」の池井戸潤が直木賞を取った作品で、本で読んではいましたが、映像で見るのは初めてでした。ロケットの打ち上げに失敗した研究者だった佃航平が実家の下町の工場で夢を諦めずにロケットの部品を開発し、大手メーカーの理不尽な要求と戦っていくという話です。その中で「佃品質、佃プライド」というのを事務所にかけているんですね。正直な感想としてとても素晴らしかった。技術者がプライドをかけて納得のいくいい物を作る、本物を作るというストーリーに感動しました。これはまさに我々の医療と全く同じだと感じました。十分な診断をし、患者さんが納得のいく説明をする、自分達も納得のいく手術をし、術後もしっかりとケアする。それこそが全員が納得のいく結果を得ることになると思います。どんな事にも自分達のプライドに賭けて決して手抜きはしない。札幌麻生脳神経外科病院もそんな集団でありたいと思います。

4月22日に北海道医療大学と北洋銀行主催の市民医療セミナー（市民公開講座）が大通で開催され、6回シリーズの第1回の講師に呼んでいただきました。タイトルは「脳神経外科からみた腰痛の診断と治療」という内容でしたが、大きなホー

ルがほぼ満席に近い状態でした。腰痛に悩む方がいかに多いかということをしみじみ感じました。

当院の副院長に就任した矢野俊介先生が6月初めに行われた第31回日本脊髄外科学会のランチオンセミナーで脊髄障害性疼痛の講演をしましたが、矢野先生はこの分野で既に国内でのリーダーの一人となっています。私は同じ学会のアフタヌーンセミナーで、脊椎脊髄外科のドリルと様々な症例の体験談を話し、頸椎手術のシンポジウムでは、「頸椎前方アプローチの手技について」の基調講演をいたしました。頸椎の前方到達法は私が最も好きで、得意な手術の一つですが、それは患者さんにとっても侵襲が軽く、手術の効果が優れているからです。現在頸椎症に対して整形外科ではほとんどが後方からですが、脳神経外科でも前方からの手術が35%しかされていないのは大変残念だと思っています。札幌麻生脳神経外科病院の頸椎、腰椎の患者さんはお蔭様で多数の病院、さらに患者さんからのご紹介により増えておりますが、十分納得のいただける治療を今後も麻生プライドにかけて追及して参りたいと思っています。4月から札幌麻生脳神経外科病院のHPも変わりました。お時間のある方はぜひ一度ご覧ください。



副院長就任の所信表明

副院長／脊椎脊髄センター長 矢野 俊介

平成28年1月に副院長を拝命致しましたので、ご挨拶申し上げます。これまで学生時代、研修医時代と大変お世話になった札幌麻生脳神経外科病院は私の中で特に思い入れの強い病院です。看護師、放射線・検査技師、リハビリ科、ソーシャル・ワーカー、薬局、栄養科、事務など全ての部門でプロ意識が高い人材がそろっており、これまで勤務した他のどの病院よりも充実していると思っております。そのような病院の副院長という大役は非常に名誉と思う反面、これらの人材を支える責任の重さを甚だ痛感しております。

私は平成20年に北大から当院に異動し、脊椎脊髄疾患を中心とした診療に邁進して参りました。とりわけ脊椎脊髄疾患では病気の治療後も痛みが残ることも少なくなく、これをいかに軽減するかということを目指しておいてきました。慢性疼痛は日本国民の7.5人に一人が抱えており、治療も長期化することから医療費としても精神疾患に次いで2番目にかかる病態であります。病院で治療を行っても、満足できる痛みの軽減が得られる人は30%しかいないというデータもあります。このような状況に対し、アメリカでは2001～2010年を「痛みの10年」と定義し、痛みに対する研究や治療に力を入れてきました。その成果も徐々に出ており、近年では様々な新薬の登場や、当院でも行っている脊髄刺激療法の発展など、痛みの治療は年々進歩しております。本邦でも厚生労働省がようやく本腰を入れ始めたことから、更なる発展が期待できます。これからも最新の治療法を積極的に取り入れ、痛みと闘う患者さまが一人でも多く満足して頂けるよう、日々精進していきたく思います。

さて、最高の医療を提供するためには個々の能力の向上も重要ですが、それ以上に個々の能力を三本の矢のように結束することが重要と考えております。今年オリンピックイヤーですが、2008年北京オリンピ



Profile

副院長／脊椎脊髄センター長
矢野 俊介

東京都出身。1995年北海道大学医学部卒。北海道大学脳神経外科入局。2001年脳神経外科専門医取得。2002年より北海道大学病院勤務を経て、2008年10月より当院勤務。2009年4月脊椎脊髄センター長就任。2016年1月当院副院長に就任。脊椎・脊髄、末梢神経疾患を中心とし、一般脳神経外科の診療や手術を専門とする。日本脊髄外科学会が認定する指導医。

ックの陸上競技で、日本が400mリレーの銅メダル(ドーピングの関係で銀メダルになるかもしれませんが・・・)を獲得したことを覚えているでしょうか。世界には100mを10秒以下で走る選手が沢山いる中で、個人記録の劣る日本がメダルを獲得したのは、バトンワークに集結した結束の力と言えるでしょう。病院も同じで、各部署や個々が結束しないことには最高の医療に繋がりません。単にバトンを渡すだけではなく、スムーズに渡すこと、そのためには渡す側も渡される側も常に相手の置かれた状況を把握し、思いやりの心を持って渡すことで強い結束が生まれ、それが最上無二の医療を提供することに繋がると考えています。これは近隣医療機関との間でも言えることで、近隣医療機関とのスムーズなバトンの受け渡しが、脳神経外科以外の病気を含めた安心医療を患者さまに提供することになると考えております。

まだまだ未熟者で至らないところも数々あるかと思っております。しかし、何とかこのバトンをスムーズに受け渡せる環境作りを使命とし、病院スタッフ、患者さまやご家族のご指導、ご叱責を受けながら、地域医療貢献のため任務を全うしていきたく思いますので、よろしくお願い致します。

薬剤部



「薬剤師さんってお薬を渡してくれるお仕事よね」とよく言われます。外来患者さまにお薬を渡した際、説明をしたり、飲み忘れ防止や生活のアドバイスをしたりということも多々あります。お年寄りから小さなお子様まで、お薬を服用したことのない方はおそろくないと思います。そのお薬が開発・製造され、病院や薬局を通じて生活者の手に届くまで、すべての段階において薬学の専門家として薬の安全性に責任を負っているのが薬剤師です。

当院は開院以来31年間、院内処方を持続しています。「患者さま第一」を理念として掲げ、外来患者さまは院内でお薬をもらって、安心してお帰りになる、これをずっと続けています。

薬剤部では10名の薬剤師が多様な業務に対応しています。2012年の新築移転に伴い、電子カルテと



無菌調製

連動した全自動分包機・自動薬袋発行機を導入しました。持参薬に関しても、検薬から配薬まで、個々の患者さまに対して徹底した医薬品管理を行っています。



薬剤師の主な業務内容としては、内服・外用薬の調剤、注射薬や点滴の調製・管理、適切な薬の飲み方の指導を行うほか、お薬の在庫管理・品質管理を行っています。患者さまによりよい薬物治療が行われるよう、医師、看護師との連携を密に業務を遂行しています。近年はジェネリック薬品の需要が増え、服用されている患者さまも多くなりました。複数の病院にかかり、お薬が重複していることも多々あります。私たち薬剤師は、お薬の安全性や有効性を考慮し、飲み合わせや副作用の有無を確認して、安全で安心にお薬を服用していただけるよう心がけています。これからも患者さまのために役立つ薬剤師、親切なかかりつけ薬剤師を目標に、スタッフ一同、努力を重ねていきます。私たち札幌麻生脳神経外科病院の薬剤師は「世界一」を目指しています。



上手に使おう「おくすり手帳」

「おくすり手帳」は医師、歯科医師、薬剤師があなたの薬歴を知ることにより重複投与・相互作用を確認して、薬を安全・適正に処方、調剤し使用して頂くためのものです。通院の際や市販薬を購入する際にご提示下さい。また、災害時や旅先での急病やケガなどでかかりつけの病院・歯科や薬局に行けない場合にもあなたの薬歴がひとめで判る「おくすり手帳」は治療に大変役に立ちます。

ドクターご紹介



はまうち しゅうじ
医師 濱内 祝嗣

本年4月より赴任した濱内祝嗣です。脳卒中急性期と脊髄疾患を中心に診療をさせて頂いています。2006年に鹿児島大学医学部を卒業し、2008年に北海道大学脳神経外科に入局しました。モットーは「どのような疾患であっても原因と治療について真剣に考える」札幌麻生脳神経外科病院を受診してよかったと言って頂けるよう、日々全力投球しています。どうぞよろしくお願いたします。



2006年鹿児島大学医学部卒業。2008年より北海道大学脳神経外科に入局。これまで北海道大学病院、釧路労災病院、北海道脳神経外科記念病院、柏葉脳神経外科病院に勤務。2016年4月より当院勤務。専門は脊髄・機能外科。頭部外傷、脳卒中などの一般的な脳外科的疾患についても相当数の診療経験を有している。

【認定医・専門医】日本脳神経外科学会専門医、日本脊髄外科学会認定医

当院の理念・方針・患者さまの権利

病院の理念

私たちは、常に「患者さま第一」を心がけます。

病院の方針

1. 高度先進医療の推進と実践
2. 地域医療への貢献、啓発と実践
3. 患者さまの権利擁護と尊重
4. 医療従事者、学生の教育と実習

患者さまの権利

1. 病気のことについて、納得いく説明を求めることができます。
2. 患者さまのプライバシー（全ての情報）は厳守されます。
3. 治療、検査、看護の同意について、患者さまの意思が尊重されます。

編集後記

「病院なのに、なぜか落ち着く不思議な病院でした。安心します。」投書に寄せられた入院患者さまの声です。「安心」という言葉に、あらためて身が引き締まりました。私たちの理念は「患者さま第一」です。どんなに辛く苦しいときも笑顔を決やさず、We never give up! 患者さまの笑顔が私たちの宝物です。

医療法人 札幌麻生脳神経外科病院

〒065-0022 札幌市東区北22条東1丁目1-40
TEL 011-731-2321(代表) FAX 011-731-0559
ホームページ <http://www.azabunougeka.or.jp>

交通アクセス

- 地下鉄：南北線 北24条駅下車（2番・3番出口から徒歩約7分）
- 中央バス：「北21東1」下車、徒歩約2分
- 中央バス：「北24東1」下車、徒歩約2分



携帯用サイト



当院へのバス路線 中央バス

屯田線 02・新琴似線 09・あいの里・篠路線 22
篠路駅前団地線 33 36・ひまわり団地線 28
花川南団地線 14・花畔団地線 16・元町線 東70
石狩線・石狩線（トーマン団地行）・札厚線・札幌線（特急）

※お間違いないようご注意ください

- 往路と復路とで停留所の異なる路線があります。
新琴似線 09・花川南団地線 14・花畔団地線 16・石狩線・石狩線（トーマン団地行）
- バス停「北24条東1丁目」は旧石狩街道・石狩街道・宮の森北24条通の3カ所あります。